

2025年7月 東京地区百貨店売上高概況

2025年8月25日

I. 概況

1. 売上高総額	1,365億円余
2. 前年同月比(増減率)	-10.0%(6か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-9.3%(91.8%)：非店頭-17.2%(8.2%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店 (本年6月対比±0店) (前年同月比：±0店)
5. 総店舗面積	667,660㎡ (前年同月比：-5.2%)
6. 総従業員数	12,394人 (前年同月比：-6.5%)
7. 3か月移動平均値	12-2月 1.7%、1-3月 -0.4%、2-4月 -4.3%、 3-5月 -6.5%、4-6月 -8.8%、5-7月 -9.9%

[参考] 2024年7月の売上高増減率は8.3%

【特徴】

7月の東京地区は、売上高(10.0%減)、入店客数(12.2%減)共に前年を下回った。前年免税売上の高伸反動の他、一部店舗の改装工事等が影響した。国内は各社、外商顧客やハウスカード会員向け優待施策等を実施し、4.2%減と前月より0.5ポイント改善。具体的なアイテムの動向は以下の通り。

衣料品(7.6%減)：主力の衣料品は、婦人服ではブラウス、カットソー等が好調だった他、シアーや麻等の薄手の涼感素材が稼働。紳士服はビジネスアイテム苦戦で二桁減。洋品は猛暑対策から帽子、UV手袋、ハンカチ等引き続き好調。クリアランスは昨年はインバウンド需要も見られたが、本年は訪日客数減で低調。国内客のセールへの消費意欲も低い。

身のまわり品(20.7%減)：ラグジュアリーブランドのバッグ、財布、靴等は、前年インバウンドの高伸反動で苦戦。猛暑対策の晴雨兼用傘は女性用の他、男性用も伸長。スーツケース等のトラベルバッグはインバウンド減少で低調。

雑貨(6.0%減)：全体ではマイナスだが、前月より8.5ポイント回復。化粧品はインバウンド減少もUV関連商品やボディケア、フレグランス等の品目は堅調。美術・宝飾・貴金属(4.0%減)は、一部金取扱いブランドの価格改定前の駆け込み需要もあり、金製品好調。

食料品(3.7%減)：生鮮食品は価格高止まり影響から6.5%減と16か月連続減。惣菜は、土用の丑の日は7月に2回(7/19・31)あり、うなぎが好調。中元商戦はEC好調も店頭縮小傾向で、全体ではほぼ前年並みで推移。ビアガーデンは暑さを楽しむ顧客増で活況。

8月足元動向：免税売上のマイナス幅が縮小したことに加え、国内も徐々に回復傾向にあり、前年比1.8%増(8/18時点)で推移。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日(前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数16店舗)
 - ①増加した：6店、②変化なし：2店、③減少した：8店
- (3) 7月歳時記(中元、クリアランス、夏休み)の売上(同上/有効回答数11店舗)
 - ①増加した：2店、②変化なし：4店、③減少した：5店

東京地区百貨店 売上高速報 2025年7月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	136,579,091	100.0	-10.0
紳士服・洋品	8,571,309	6.3	-10.4
婦人服・洋品	21,567,594	15.8	-6.1
子供服・洋品	1,581,646	1.2	-6.2
その他衣料品	1,599,246	1.2	-12.6
衣 料 品	33,319,795	24.4	-7.6
身のまわり品	24,404,466	17.9	-20.7
化粧品	12,235,938	9.0	-5.9
美術・宝飾・貴金属	16,689,934	12.2	-4.0
その他雑貨	4,043,173	3.0	-13.6
雑 貨	32,969,045	24.1	-6.0
家 具	1,339,631	1.0	-17.8
家 電	1,047,076	0.8	25.7
その他家庭用品	2,947,438	2.2	-8.4
家 庭 用 品	5,334,145	3.9	-6.1
生 鮮 食 品	4,157,897	3.0	-6.5
菓 子	10,643,446	7.8	-3.9
惣 菜	6,838,201	5.0	-3.8
その他食料品	11,997,763	8.8	-2.5
食 料 品	33,637,307	24.6	-3.7
食 堂 喫 茶	2,375,895	1.7	-12.3
サ ー ビ ス	1,675,322	1.2	-34.8
そ の 他	2,863,116	2.1	-27.8

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	1,966,007 千円	-10.3
従 業 員 数	12,394 人	-6.5
店 舗 面 積	667,660 m ²	-5.2

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は全てマイナスとなった。
 その他の品目は、家電が8か月連続でプラスとなったが、紳士服・洋品、婦人服・洋品、美術・宝飾・貴金属が6か月連続、生鮮食品が16か月連続、菓子、惣菜が13か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	-10.0	—	6か月連続マイナス
紳士服・洋品	-10.4	-0.7	6か月連続マイナス
婦人服・洋品	-6.1	-0.9	6か月連続マイナス
子供服・洋品	-6.2	-0.1	6か月連続マイナス
その他衣料品	-12.6	-0.2	8か月連続マイナス
衣料品	-7.6	-1.8	6か月連続マイナス
身のまわり品	-20.7	-4.2	6か月連続マイナス
化粧品	-5.9	-0.5	3か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-4.0	-0.5	6か月連続マイナス*
その他雑貨	-13.6	-0.4	11か月連続マイナス*
雑貨	-6.0	-1.4	5か月連続マイナス
家具	-17.8	-0.2	4か月連続マイナス
家電	25.7	0.1	8か月連続プラス
その他家庭用品	-8.4	-0.2	4か月連続マイナス
家庭用品	-6.1	-0.2	3か月ぶりマイナス
生鮮食品	-6.5	-0.2	16か月連続マイナス*
菓子	-3.9	-0.3	13か月連続マイナス*
惣菜	-3.8	-0.2	13か月連続マイナス*
その他食料品	-2.5	-0.2	3か月連続マイナス*
食料品	-3.7	-0.9	13か月連続マイナス
食堂喫茶	-12.3	-0.2	13か月連続マイナス
サービス	-34.8	-0.6	2か月連続マイナス
その他	-27.8	-0.7	2か月ぶりマイナス
商品券	-10.3	-0.1	17か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・青柳 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>